

環境経営レポート

対象期間 2023 年 4 月～2024 年 3 月



株式会社菜の花エッグ

制定 2024 年 5 月 27 日

目次

1. 取組の対象組織・活動	2
2. 登録・認証の対象組織・活動	2
3. 環境経営方針	4
4. 主な環境負荷の実績	5
5. 環境経営目標（3ヶ年）	5
6. 2023 年度環境経営目標及び活動の結果 （2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）	6
7. 環境活動計画の内容と取組結果の評価及び次年度取組内容	6
8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	7
9. 代表者による全体の評価と見直し結果	7

1. 取組の対象組織・概要 組織の概要

(1) 名称及び代表者

株式会社菜の花エッグ

代表取締役 梅原正一

(2) 所在地

本社・工場 〒292-0501 千葉県君津市山滝野 1121

(3) 環境責任者氏名及び担当連絡先

責任者 小野雄生 0439-29-2880

担当者（GP センター） 岡村裕樹

担当者（農場） チェウイド

担当者（配送） 鈴木博則

(4) 事業内容

採卵養鶏業、鶏卵の生産・加工販売、液卵の加工販売、飼料の販売、肥料の販売

(5) 事業規模

・法人設立日 1991 年 4 月 1 日

・資本金 2000 万円

・売上高 128,071 万円（2024 年 3 月末）

・従業員数 34 名

GP センター 20 名

農 場 7 名

配 送 3 名

直 売 所 4 名

・規模 本社・工場 783.51 m²

鶏 舎 4 棟 500 m² × 4 棟

採卵鶏 90,000 羽

鶏卵生産量 1,536 t（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

(6) 食品営業許可証

飲食店営業 第 2021-62 号

菓子製造業 第 2021-8 号

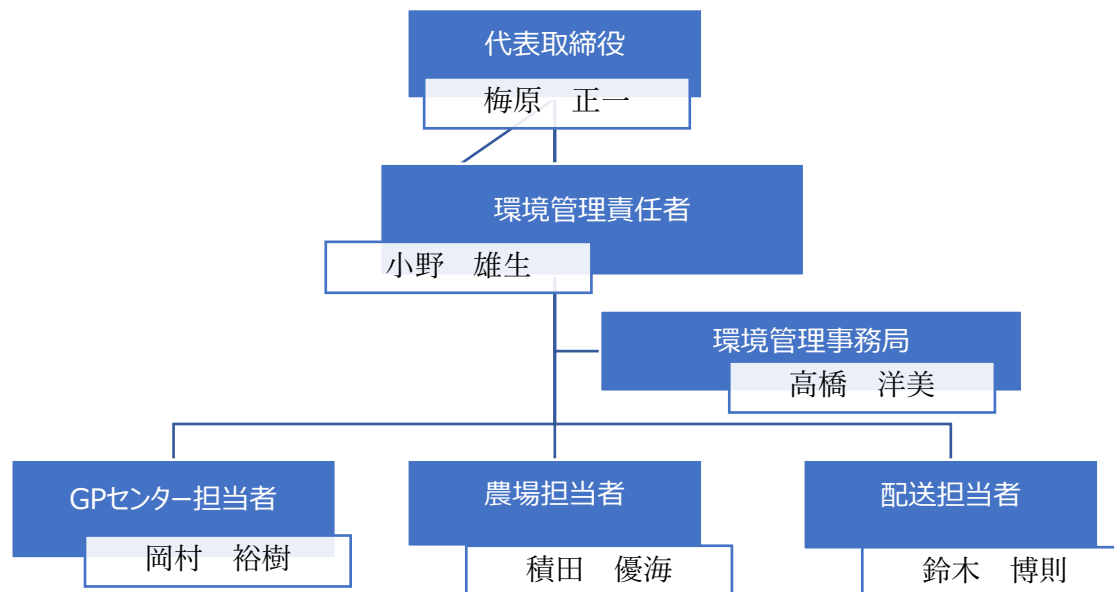
液卵製造業 第 2023-1 号

2. 登録・認証の対象組織・活動

登録組織名 株式会社菜の花エッグ

事業活動 採卵養鶏業、鶏卵の生産・加工販売、液卵の加工販売、飼料の販売、肥料の販売

対象事業所 本社・工場



環境活動実施体制

	役割・責任・権限
代表取締役	a. 環境経営に関する統括責任 b. 環境経営システムの実施及び管理に必要な人、設備、費用、時間、技能技術者の準備 c. 環境経営責任者の任命 d. 環境経営方針、目標の策定・制定見直し及び全従業員への周知 e. 代表者による全体の評価と見直し・指示の実施 f. 環境経営レポート、環境関連法規等まとめ表承認 g. 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	a. 環境経営システムの構築し、実施・管理 b. 環境関連法規等のとりまとめ表の承認 c. 環境目標設定の承認と環境活動計画書の承認 d. 環境活動の取組結果の代表者への報告 e. 環境経営レポートの確認及び地域事務局への送付 f. 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
各部門長	a. 自部門に関連する環境経営システムの実施 b. 自部門に関連する従業員への環境方針、環境目標、環境目標値、環境活動計画の周知 c. 自部門への関連する従業員に対する教育訓練の実施 d. 自部門への関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 e. 自部門への関連する必要な手順書の作成及び運用管理 f. 自部門への関連する緊急事態への対応手順書作成、施行（テスト）・訓練・記録 g. 自部門への関連する問題点の発見、是正、予防処置

全従業員	a. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
環境管理事務局	a. エコアクション 21 推進事務局 b. 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 c. 環境関連法規等のとりまとめ表/遵守評価記録の作成 d. 環境目標・環境活動計画書原案の作成 e. 環境活動計画の実績集計及び環境経営レポート原案の作成
各担当者	a. 自部門の環境負荷の把握と対応

3. 環境経営方針

「環境への取組方針」

私たちは、鶏卵生産者として、地球環境問題に多方面からアプローチし、持続可能な社会実現のため積極的に全社で環境経営システムの継続的改善に取り組めます。

「環境保全への行動指針」

1. 事業に関わる環境関連法規制を遵守し、社会的責任を果たします。
2. 電力・燃料による二酸化炭素排出量の削減に取り組めます。
3. 太陽光発電により電力の削減に取り組めます。
4. 鶏糞の堆肥化及び廃棄物の削減により適正処理を推進します。
5. 節水行動や作業改善で水使用量を削減します。
6. 最新養鶏栄養学を利用し飼料効率を上げ、飼料用米・未利用資源の利用を増やします。
7. 地域の環境活動（環境美化活動）に積極的に参加します。

この環境方針を全従業員に周知し、教育啓発活動を実践していきます。

制定日 2023 年 1 月 5 日
株式会社 菜の花エッグ
代表取締役 梅原正一

4. 主な環境負荷の実績

2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

項目		単位	2023 年度
二酸化炭素の排出量		Kg-CO ₂	400,826
運搬車両の軽油使用量		ℓ	45,641
電力使用量		kWh	529,139
廃棄物	産業廃棄物（鶏糞）	t	3,000(全量堆肥化)
	産業廃棄物（工場）	kg	1,510
	一般廃棄物	kg	3,981
水使用量		m ³	418
A-PET パックの使用量		t	26.52

5. 環境経営目標

2021 年度を基準年とした今後 3 年間の中長期環境経営目標は次の通りです。

年度：4 月～3 月

項目 \ 年度			基準値	2022 年度	2023 年度	2024 年度
			基準年 2021 年度	目標 基準年度比 1%減	目標 基準年度比 2%減	目標 基準年度比 3%減
軽油、電力、ガソリン、灯油、プロパン使用量による二酸化炭素を削減【全社】2023 年より鶏糞含む		Kg-CO ₂	376,629	372,862 以下	369,096 以下	386,043 以下 ※
運搬車輛の軽油使用量の削減		ℓ	33,042	32,712 以下	32,382 以下	45,184 以下 ※
鶏舎内のケージシステムと GP センター電力使用量の削減		kWh	570,485	564,780 以下	559,075 以下	523,847 以下 ※
廃棄物	産業廃棄物（鶏糞）	—	鶏糞全量堆肥化	鶏糞全量堆肥化	鶏糞全量堆肥化	鶏糞全量堆肥化
	産業廃棄物（工場）	kg	4,206	4,164	4,121	4,080

水使用量の削減	m ³	632	626 以下	619 以下	613 以下
商品の環境負荷低減（A－PET パックの使用量を削減）	t	26.88	26.61t	26.34 以下	26.07 以下
地域の環境活動/資源ごみ回収		—	実施	実施	実施

1. 化学物質は使用していないので環境目標は設定していない。

2. 事務所等からの廃棄物排出量は少量のため分別、リサイクル削減活動を実施する。

※ 二酸化炭素排出量（全社）・運搬車両の軽油使用量・電気使用量の 2024 年度の目標は 2023 年度を基準年度比 1%減とする

6. 2023 年度環境経営目標及び活動の結果

（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

項目		単位	2023 年度目標		2023 年度実績値	目標比	※評価
軽油使用量の削減		ℓ	32,382	K ℓ /年以下	45,641	41%増加	×
電力使用量の削減		kWh	559,075	kWh/年以下	529,139	5%削減	○
二酸化炭素排出量		Kg- CO ₂	369,096	kg-CO ₂ /年 以下	400,826	9%増加	×
廃 棄 物	産業廃棄物（鶏糞）	—	鶏糞全量堆肥化		鶏糞全量堆肥化	実施	○
	産業廃棄物（工場）	k g	4,121	kg/年以下	1,510	63%削減	○
水使用量の削減		m ³	619	m ³ /年以下	418	33%削減	○
製品・サービスの環境負荷低減 A－PET パックの使用量を削減		t	26.34	t/年以下	26.52	1%増加	×
地域の美化環境活動		—	実施		実施	実施	○

※評価： 目標達成…○ 目標未達成…×

注）電力由来の二酸化炭素の排出係数は、2022 年 1 月に環境省が公表した「電気事業者別排出係数」から東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数『0.443kg-CO₂/kWh』を使用しました。

7. 環境活動計画の内容と取組結果の評価及び次年度取組内容

2023 年度の実績結果（活動期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

環境経営目標		取組	結果	次年度の取組
1	軽油使用量の削減	① エコドライブの実施	○	継続する
		② アイドリングストップの徹底	○	継続する
		③ 定期点検の徹底	○	継続する
2	電気使用量の削減	④ 鶏舎内温度の適正温度	○	継続する
		② G P センター内の適正温度	○	継続する
		③ 不用箇所の消灯徹底	○	継続する
		⑤ 太陽光発電の自家消費とメンテナンス	○	継続する
3	二酸化炭素排出量の削減	上記 1, 2 の削減活動を以って取り組む	○	継続する
4		① 鶏糞の堆肥化(全量堆肥化し肥料を販売)	○	継続する

	産業廃棄物及び一般廃棄物排出量の削減	②包装資材の再資源化	△	継続する
		② OA 用紙使用量の削減	○	継続する
		③ 分別・リサイクルの実勢	○	継続する
		④ 一般・産廃分別	○	継続する
5	水使用量の削減	① 節水アイテムの導入	○	継続する
		② 節水教育及び適正使用	○	継続する
6	製品・サービスの環境負荷低減（A-PET パックの使用量を削減）	①A-PET パックの使用量を削減	△	継続する
		②モルドパック商品への変更	△	継続する
		③飼料要求率の向上	△	継続する
7	地域の環境美化活動	周辺地域の環境美化活動	○	継続する

結果の記号：○----取組んでおり問題なし △----取組んでいるが一部まだ問題がある ×----未実施

※注記「次年度の目標は 5 頁に記載の通り」

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2024 年 5 月に遵法状況を確認した結果、環境関連法規等の違反はありません。

また、関係当局より違反、訴訟等の指摘もありません。

主な、環境法令等は次の通りです。

廃棄物処理法 ・消防法 ・自動車 NOx・PM 法 ・労働安全衛生法 ・フロン排出抑制法

君津市環境保全条例 ・浄化槽法 ・容器包装リサイクル法

9. 代表者による全体の評価と見直し結果

2023 年 4 月から 2024 年 3 月までの 1 年間を対象に EA21 活動に取り組み、電力・燃料・廃棄物・水道等の削減活動等を実施した。環境関連法規等の遵守評価体制が構築され順守していることを確認できるようになった。

2023 年 1 月に太陽光パネル（発電量 64.8KW）を敷地内に設置し、2 月より稼働し発電し自家消費を行い、電力使用量を削減した。さらに、2024 年 2 月に空調機 4 台を更新し、2024 年に太陽光パネルを増設（発電量 19KW）計画があることで新年度の電力量削減に期待ができる。

また、廃棄物の再資源化として、鶏舎（9 万羽）からの鶏糞を全量堆肥化して肥料として販売しており、廃棄物の削減に努めております。

軽油使用量・二酸化炭素排出量（全社）・A-PET パック使用量が累積目標値未達成となったが、他の目標は目標値を達成した。

軽油使用量は 2022 年より配送拠点が変わったため、2021 年度と比較して大きく増加した結果、二酸化炭素排出量（全社）も累積目標値未達成となった。軽油使用量・二酸化炭素排出量（全社）の目標値を 2023 年度の実績値を基準年にし、2024 年度目標値は基準年(2023 年)の 1%削減とする。その後は前年の 1%削減を目標とする。

電力使用量は、太陽光発電により削減に寄与し、電力使用量の 1 日のパターンを見える化することで、電力使用量の削減に努め、今後、電力使用量の実績を踏まえて目標値の見直しを検討します。

なお、環境経営方針、環境経営計画、環境経営システムに変更はありません。

今後も作業改善等で削減を進めるよう指示した。

